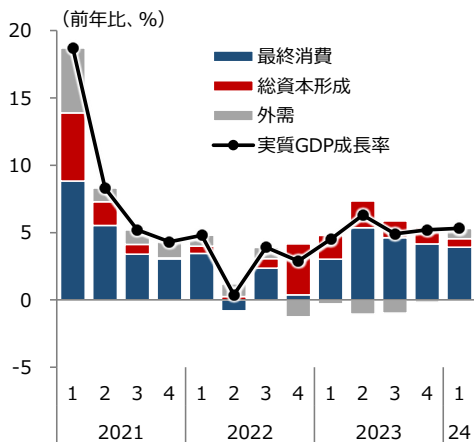


中国

GDP (24年1-3月期)

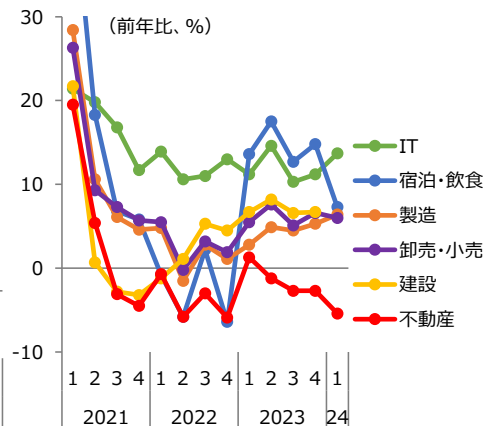
過剰供給批判のもとでの新三種の輸出動向が成長の勢いを左右

1 実質GDP



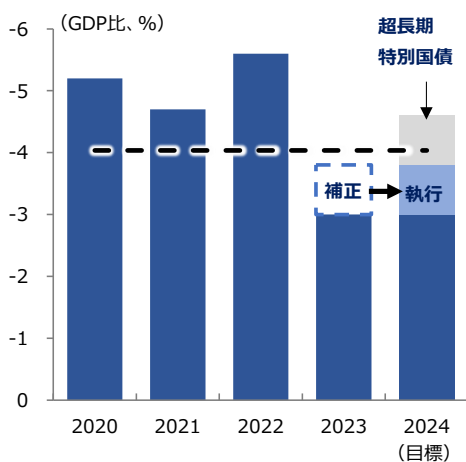
出所：Windより三菱総合研究所作成

2 主な産業のGDP



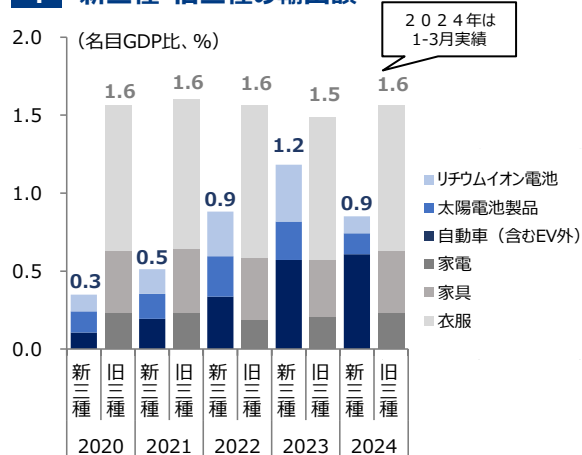
出所：Windより三菱総合研究所作成

3 財政赤字のGDP比



注：中央政府勘定。破線は17-19年平均。
出所：Wind、NNA Asiaより三菱総合研究所作成

4 新三種・旧三種の輸出額



注：新三種の自動車にはEV以外も含む。数字は新三種、旧三種それぞれの輸出合計の名目GDP比の値。24年は1-3月の実績。
出所：Macrobond、Windより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年1-3月期の中国の実質GDP成長率は前年比+5.3%となり、23年10-12月期（同+5.2%）と概ね同水準の成長となった。最終消費、財政支出拡大に支えられた総資本形成がプラス寄与を継続したほか、輸出回復から外需も22年7-9月期以来、6四半期ぶりにプラス寄与となった（図表1）。
- 産業別では、前年比+10%超の成長を続けるITセクターを初め、23年1-3月期以降、不動産以外のセクターはプラス成長を継続している。唯一、不動産セクターは、同▲5.4%と、4四半期連続でのマイナス成長となっている（図表2）。不動産問題の解決は未だ見通せない。

今後の注目点

- 先行き、拡張的な財政支出が不動産市場低迷の下押しを補完し、総資本形成は23年並みのプラス寄与を見込む。全人代（全国人民代表会議）では、財政赤字目標対象外で超長期特別国債1兆元（同0.8%程度）の発行を決定した。24年執行が太宗の23年補正予算（同0.8%程度）と合算で、財政赤字はGDP比4%台半ばと拡張的な水準となる（図表3）。
- 最終消費は、不動産低迷による耐久財消費等の不振は継続するが、23年並みの成長ペースは見込める。総資本形成、最終消費の23年並み成長ペースのもと、24年の実質GDP成長率は、政府目標5%前後を確保するであろう。先行き、中国経済の成長の勢いは、外需が成長軌道を継続できるかが左右する。
- 全人代の政府活動報告で、李強首相は新三種（EV、リチウムイオン電池、太陽電池製品）の輸出拡大へ言及した。新三種輸出のGDP比は、20年の0.3%から23年には1.2%へ急拡大している（図表4）。旧三種（家電、家具、衣服）と新三種の輸出拡大が重なれば成長の勢いが増す可能性がある。
- ただし、EV需要の踊り場入り懸念がある中、イエレン米財務長官が中国の過剰供給への懸念を示す等、主要輸出先である米欧輸出に逆風が吹いている。新三種の輸出に影響する米欧との通商交渉、新興国需要の行方に要注目だ。